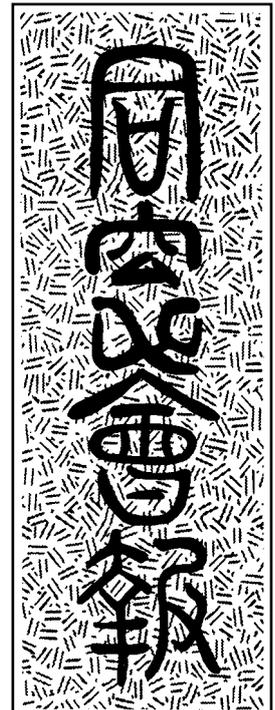


同窓会は鳥羽小を応援しています



鳥羽っ子の幸せと夢の実現のために



平成 31 年 3 月
第 28 号
鳥羽小学校同窓会



新入会員紹介

〜平成30年度卒業生〜

学校のウェブサイトで過去の会報(第24号以降)や学校の近況をご覧になれます!
<http://edu.town.wakasa.fukui.jp/toba-s/> または「若狭鳥羽小」で検索



はばたけ新入会員

同窓会長 岩本 守博

今年、間もなく元号が変わり新天皇が即位されるという大きな節目の年となりました。

前会長竹内小太衛氏より本職を引き継がせていただきましたが、このような記念すべき年に遭遇できたことを幸いに感じつつ、会員各位のご指導を賜りながら務めさせていたただきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、本会の事業の一つに、「教育振興」というのがございます。在校生への教育支援です。今年度は、アコデオオンと4Kテレビを贈りました。そして、卒業生にということ、ブック型の卒業証書ケースを贈らせていただきました。今までは丸い筒状のケースでしたが、収納しやすく見やすい、半分に折りたためるいいものになりました。

ふと、この二十名の卒業生の将来のことに思いを馳せてしまいました。すでに始まりを見せているAI・IOT社会は、第三次産業革命の完成段階になるといわれています。彼らは間違いなく長ビグデー

タを活用するIOT社会に生き、今の 아이폰 のようにAI機器に取り巻かれる生活を余儀なくされることでしょうか。このことは、今までの閉塞状態にあつた社会からの大きな転換でもあると思われまふ。社会の構造は変わるのでしようが、それは反面希望を与えてくれることになるのかもしれない。



このようなことを思うと、何となく先が明るくなるようで、何かワクワクするような感じさえしてきます。団塊世代のただ中に生きてきた私どもには見果てぬ夢でしょうが、力強く前へ進んでほしい。



ご挨拶

校長 古田 宗吉

鳥羽小学校同窓会会員の皆様には、まずまずご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に對しまして格別のご理解とご協力を賜っておりますこと心からお礼申し上げます。

さて今年五月から、平成に変わる新しい年号がスタートします。それに伴い四月には新年号の公表、そして国を挙げての諸行事の関係で四月末から五月初めにかけて十連休が設定されました。この会報をご覧くださる頃には何かとせわしい思いをされる方もおられるかもしれません。この大きな区切りとなる時期に、鳥羽っ子たちと平成の三十年間を振り返ってみました。三十年という長い期間でしたから色々なことがありました。その中で、忘れてはならないのは自然の脅威だろうと思います。特に平成

いと願わずにはいられません。最後にになりましたが、会員諸氏並びにご家族の皆様のみすますのご発展とご活躍を心から祈念申し上げます。

七年一月十七日早朝に起きた阪神淡路大震災は若狭地方にも大きな影響がありました。朝六時前の薄暗い時間に突き上げるような激しい揺れを感じて目を覚まされた方も沢山おられただろうと思います。あまりに大きな地震であつたため詳細が分かるまで時間を要し、昼頃になつて初めて関西地方が大変なことになることがニュースなどで報じられました。高速道路を支える太い支柱が軒並み横倒しになっている様子をびつくりしながら眺めていたことを思い出します。地震発生が朝食の準備時間とも重なり各地で火災が発生しましたが、消防車両が通行するための道がふさがれ、現場に到着しても消火に必要な水が確保できませんでした。この阪神淡路大震災では強烈な地震とその後に発生した広範囲の火災により六千人以上犠牲

者がでる未曾有の大災害となりました。その後も東日本大震災など何度も大きな災害が各地で起こりました。また、昨年は、北海道東部で大きな地震が発生しました。地震学者の研究によりますと、しばらくは地震の多い状況が続くようです。自分の命そして周りの命を守るために、先ずは落ち着いて考えて行動することを常に心にとめておく大切さを鳥羽っ子たちと確認しました。

平成の最後は、福井国体総合優勝というすばらしい締めくくりでした。今年五月からの新年号の時代も、鳥羽小学校に通う鳥羽っ子たちが活躍してくれるすばらしい時代になることを願っています。

ところで、この阪神淡路大震災で関西地区の交通の大動脈が寸断されたため、それから長い間、国道二七号線の大渋滞が続き、若狭地

方の交通もマヒ状態でした。そこで阪神高速のバイパス道路の必要性が全国的に認められ、現在、鳥羽地区にインターチェンジを備えた舞若道の建設が促進された様に思えます。舞若道の開通は鳥羽地区の皆様にとりましても、新たな高速交通体系の始まりになったのではないのでしょうか。新年号の時代には新幹線も開通しているだろうと思います。今年には新たな鳥羽地区の歴史を刻む最初の一頁になるように感じます。その中で、今年も鳥羽っ子は元気に学校生活を送っています。その様子を、鳥羽地区の会員の皆様はもちろんのご覧いただけただけなら幸いです。ご都合のつくときにいつでもご来校ください。現役鳥羽っ子と職員一同心からお待ち申し上げます。



学校給食

飛 永 悦 子

(昭和29年度卒 旧姓 岡本)

「おかえり、寒かったやろ！」
 今日も見守り隊の老人会の人たちの迎えで、三々四人の小学生が帰って来ます。子どもの数が減ってきて、今や数少ない小学生を、集落全体で見守りするような状態を寂しく悲しく思います。

終戦後間もない昭和二十四年に私は鳥羽小学校へ入学しました。日本中貧しい時代、麦飯に梅干、たくあんの入った弁当を持って学校に通いました。小学五年生になった時、明日から給食が始まるからと、大きな器を持って行ったことを思い出しま



す。その時の初めての給食は何であつたか残念ながら覚えていないのですが、わくわくうれしかったことだけ覚えていてます。

私は今、伝統野菜「山内かぶら」の生産を老後の生きがいとしてみんなで取り組んでいます。伝統野菜とは、同じ土地で百年以上種を取り続けていることが認定されている野菜のことをいいます。七年前より、毎年鳥羽小学校三年生が我が家の畑で山内かぶらの種をまき、

十一月には収穫をしに来てくれます。作業の後はかぶらのみそ汁やかぶら入りのコロツケ、餃子を試食してもらい、伝統野菜のことや日本古来の大根やかぶらの大切さを勉強しています。かぶらのみそ汁が好きになったと言ってくれる子どもたちの声や、出会うと「かぶらのおぼちゃん！」と声をかけてくれるとうれしくなります。また、子どもたちが収穫したかぶらを使い、小学校で一緒に料理を作って食育の大切さを感じ、今後も続けていきたいと思っています。

山内かぶらの歴史は定かではありませんが大正五年の鳥羽村誌に「鳥羽村に鉄道が敷かれ、大鳥羽駅が出来れば、古くから伝えられている山内かぶらは販路が得られ、大いに興隆すべきであろう。」と記されているのを知りました。奇しくも若狭に新幹線が通ることになった今、コの字型に建っていた木造の鳥羽小学校の校舎と太い松の木が重なり合い、感慨深いものを感じています。

(若狭町山内 在住)



鳥羽っ子と私

武 田 健 二

(昭和40年度卒)

皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、ご無沙汰を致

しまして、母校鳥羽小学校にご尽力賜っております皆様方、有り難うご

ございます。

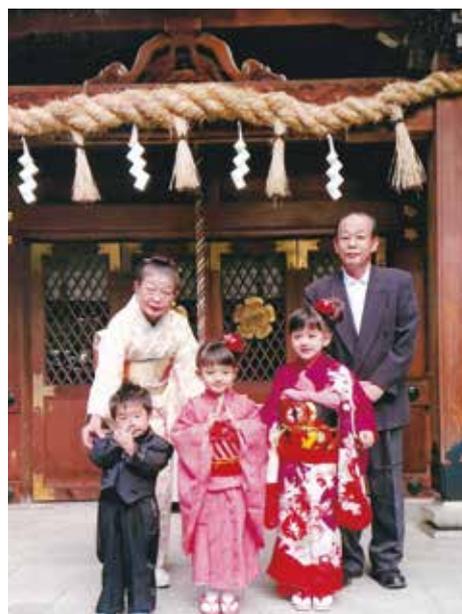
今回、有り難くも、この様な機会を頂き、電話を頂いた時には、嬉しさの余り二つ返事で了解をしておりました自分に今、反省をしております。

私自身は、故郷はルーツだという思いをかねがね強く持つております。京都かみなか会が、上中町と三方町

が合併するまでは存続しております。上中町が出来たのは昭和二十九年とお聞きしております。町制四十周年記念行事には、京都市役所にて、出迎えもさせて頂いた事を思い出します。何らかの繋がりを持っていたいとの思いが強く、参加させて頂きました。

小学校の思い出としては、白黒の映画をスクリーンの裏から見ていた記憶がたくさんあります。ディズニーの101匹ワンちゃんや愛染かつら（題名が違っておるかも知れませんが）など、時代劇もあり、一時、鳥羽村に映画館が出来て、学校からみんなで授業の一環として見に行っていたに思います。（総天然色）カラーの映画でびっくりしたのをよく覚えております。

何事にもドン臭い私ですので、ハーモニカを吹ける人が不思議でたまりませんでした。まして、たて笛など吹ける筈がありません。発表会の



時、背が低い私は最前列に並び、先生から、

「けんちゃん、無理に吹かなくて良いのよ。」

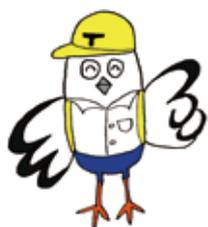
と言われてしまい、発表会は無事終了しました。

鳥羽谷の大自然に包まれて過ごして来た日々を、懐かしく思い出します。自然を破壊せずに、子孫に残して欲しいと切に希望します。

随分前ですが、足立美術館に行つた時、周りの山々を借景に使い、高压電線の鉄塔が一本もなかった時、感動を覚えたことを思い出します。

こういった機会を頂き、有り難うございました。

（京都市 在住）



トバード

鳥羽小学校のイメージキャラクターです。

鳥羽つ子と私

井 関 直 美

（昭和46年度卒 旧姓 小林）



向こう鏡の山高く♪ 鳥羽の谷川水清し♪

同窓会報の原稿依頼を頂いた時、私の頭の中にはすぐこの校歌のメロディが流れてきて懐かしい気持ちでいっぱいになりました。最近聞いた歌は、歌詞もすぐに忘れてしまうのに、幼い頃から親しんだ、この校歌は歌詞も間違えず、すらすら出てきます。今年還暦を迎え、卒業して早、四十七年が経ちます。寄稿に寄せまして、小学校のアルバムをめぐって見ますと、「よい子の集い」の写真を見つけました。五年生の夏休みに大鳥羽のお寺へ五・六年生の子どもたちが泊まりに行つた時のものです。初めてのお泊りで、ドキドキワクワクしながら、タオルケットを持っていったように思います。鳥羽地区のお寺の住職さん達と遊んだり、座禅をしたり、様々な楽しい体験の中でも特に印象に残っているのは、地域の家庭のお風呂に入らせて頂いたことです。あの頃は、きららの湯などの銭湯はなく個々の家庭のお風呂へ五・六人ずつに分かれて、入浴させてもらいに行きました。代わる代わる入らせていただき、待っている間にはお菓子頂きながらお家の人と話

をしたり、夜は本堂で、みんなで並んで雑魚寝をして、興奮してなかなか寝付けなかったりしたことを覚えております。今考えると、約七十人余りの子どもたちを集落で協力して受け入れたり頂き、地域全体で温かく子どもたちを育てていただいていたことを改めて感じ、有難い思い出いっぱいになりました。

ご縁があつて、昨年の夏には、鳥羽公民館に「夏休み子ども習字教室」の講師として行かせて頂きました。鳥



羽の子どもたちは、人なつつくくて、素直でのびのびとして、一生懸命取り組む姿に、先輩として嬉しく、楽しい時間を過ごすことが出来ました。このような形で鳥羽小学校の子どもたちと接することができるとは夢にも思っていないませんでした。思い返せば、小学四年生の時から、山本尚繁先生に熱心に習字を教えて頂きました。元々が左利きの私は、小学生になつてから右手で鉛筆を持つよう矯正されました。そのため、当時の私の字は力が入らずか細くなり、右手で満足に書けるようになるまで苦労しました。山本先生に教えて頂き、筆で字を書くのは、鉛筆と違った感覚で楽しく、褒められることで、字を書くことが好きになっていきました。当時、習字の基礎を丁寧指導してい



変らない自然風景に 囲まれて

三 宅 清
(昭和47年度卒)

この原稿を書き始めたのが十二月二十四日、夕方のニュースでは、「二十三日あたりから数年に一度の強い寒波が来る。」とアナウンスしていました。私は、これを聞いて「今年の冬はあまり雪が降らなければいいが……」と思つたものでした。こう思つたのは、私だけではないと思います。しかし、ちょうど鳥羽小学校に通

ただいたことが、現在に至るきつかけになつていのではないかと感じています。最近、パソコンやスマートフォンを使い、字を書く機会が少なくなりがちですが、心を込めて字を書くことで書き手の想いを伝えたり、手先を使うことで認知症の予防になつたりするなど、続けることに書道の魅力を感じ、それが今の私の生活の愉しみとなつています。今後も、温かい家族・友達・先生方・地域の人たちに囲まれた鳥羽小学校の子どもたちと、習字を通じて交流できることを楽しみにしています。最後にになりましたが、皆様のご健康とご多幸を、そして鳥羽小学校の益々のご発展をお祈り申し上げます。(若狭町安賀里 在住)

学していた頃は、まったく逆のことを考えていたことを思い出しました。雪がたくさん積もつたらスキーやソリ遊びができるから、という、ごく単純な理由でした。これだけでなく、雪が多く積もつた通学路を、美しく冠雪した三十三間山を眺めながら歩いて登校することも楽しんでいたのであるが、今は、

冬のことばかり書きましたが、あらためて周りを見渡してみると、鳥羽小学校周辺は自然が豊かで、変化に富んだ四季折々の風景が楽しめます。このような環境の中で暮らすことができるのは、けつこう「幸せ」なことではないかと思ひます。

学校を卒業してから就職し、実家を離れて会社の寮や社宅で生活していましたが、特に大阪(正確には吹田市千里丘)の社宅周辺はビルが立ち並び、すぐそばをJRの線路と渋滞が激しい産業道路が走っており、鳥羽谷とは比べようのない賑やかさでした。お花見や紅葉狩りに行くのも混雑した電車に乗るか、渋滞に悩まされながら車を運転しなければならず、そして現地に行つたら大勢の人。桜の花や紅葉を楽しむどころか、疲れに行くようなものでした。でも、ここ鳥羽谷であれば、居ながらにして春の桜、初夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪山を楽しむことができます。これはすごく幸せで贅沢なことなのではないでしょうか。

今は、千里丘の社宅を引き払って、生まれ育つた麻生野で暮らしていますが、これが麻生野に戻ってきてからのいちばんの「気付き」でした。

鳥羽小学校も、現在は耐震構造の立派な校舎に建てかえられ、周辺は舞鶴若狭自動車道が開通し、インターチェンジもできて、大変便利になりました。また、小浜線も電化されて静かな電車が走るようになりました。

このように、物理的環境変化が目まぐるしい鳥羽谷ですが、周りの自然風景は変わっていません。今も私が鳥羽小学校に通学していたときのままです。この当たり前の「幸せ」を感じられることをこれからも大切にしていきたいと思ひます。

今も地区の主な行事は鳥羽小学校で行われており、このような機会に学校の敷地内に立ち入らせていただくのですが、このときは私にとつて、ホッとできる癒しの時間です。どうかこれからも癒しのスポットであつてくれることを願っています。

(若狭町麻生野 在住)





ありがとう

池 由香

(昭和62年度卒 旧姓 青山)

「ご苦労様です！」
小学校の帰り道、畑仕事をする人
にあいさつすると
「おかえり〜」

と手を止めてこちらを向いてにつ
こり返してくれる。

鳥羽小学校の事を考える時、登
下校の事が一番に思い出されます。
出会った人には挨拶、みんなで列
を乱さず登校、たまに通るスカイ
ラインを見られたらラッキー！
先生の車には窓が閉まっていますも
大きな声で挨拶していたなあ。
山内から鳥羽小学校までなんて遠
いのでしよう。今考えてもよく歩
いて通ったなあと感心です。今は、
大阪に住んでいて、長男が小学校
四年生、家から小学校まで五分と
かからない。羨ましい反面、私み
たいに登下校での素敵な思い出は
作れないんだらうなあと思ったり
します。

ある朝の集団登校での出来事。
一年生の私は歩けないと泣いたの
だろうか？ 今となつては覚えて
いないけれど、六年生の男の子が、
私をおんぶして歩いてくれました。
どこまでおんぶしてくれたのか？
きつと小学校に着くまで歩いて



くれたと記憶しているけれど、子
どもが子どもをおんぶして歩くな
くて、本当に感謝しかありません。
ありがとう。

あられが降る冬には、スカート
が凍ってしまったてカチコチになる。
そのまま歩き続けるので、膝上の
あたりが固くなったスカートで擦
れて真っ赤になる。足先も感覚が
無くなるくらい冷たくなって、半

泣きで家まで帰ったのを思い出し
ます。家に帰ると洗面器にお湯を
はって、足を温めてくれたおばあ
ちゃん、ありがとう。

友達と笑ったり、喧嘩したり、怪
我したり、色んな事があつたなあ
と思ひ出されます。

そして、その一つ一つが今の私
を作ってくれているのだと……。
どんな記憶が大人になるまで



鳥羽小学校の思い出

ブリオ 和泉

(平成2年度卒 旧姓 原田)

私達が卒業して約三十年経つが
今でも思い出す事と、短期間では
あるが海外に住んで、改めて気づ
いた鳥羽小学校の良さについて書
きたい。

まず一つ目の良いところは、挑
戦する場、機会がある事だ。全校
生徒の前で行った劇(孫悟空や松
之木庄左衛門)、卒業式の贈る言葉
の発表、裸足の校庭マラソン、読
書マラソン、五時に起きて走って
みる、給食後取り合いだった一輪
車、山側で始めたスキーなど、次
から次へと新しい事に挑戦できる
環境を与えて頂いた。まずやって
みる、挑戦してみる、努力してみ
るといふ精神が養われたと思う。
二つ目の良いところは、縦割り

残っているのか分からないけれど、
子どもの記憶に残る様な、ふと思
い出してほっこり出来る様な、そ
んな思い出を我が子にも作ってあ
げたいと思います。

(大阪府豊中市 在住)



班活動がある事だ。雪の造形大会、焼き芋大会、掃除など、一年生から六年生が協力して行つた。大鳥羽の卓球や百人一首の練習で夜集まった時も、上級生はみんな優しく教えてくれたのを覚えている。今も、地域行事で集まると上級生が下級生に、思いやりをもって接してくれる様子を見聞きするのは嬉しいものだ。

三つ目の良いところは、熱心に指導して下さる先生、職員、地域ボランティアの方々の存在だ。素晴らしい先生方との出会いがあり、教科書の内容は勿論、それ以外にも多くのことを教えて頂いた。個性派揃いのクラスであったと思うが、それぞれの個性を尊重してもらい、楽しく勉強できた。また当時は当たり前になっていた給食も、実は、職員の方々のおかげであった。作りたてで温かいバランスのとれた給食が、当たり前ではない学校もあると今更ながら気がついた。さらに地域ボランティアの方々が、生徒の下校に合わせて道路横断を見守って下さることも有難い事だ。このように学校生活において、

多くの人に支えられてきた事に感謝したい。

最後に、鳥羽には豊かな自然がある事だ。登校時、霜柱の上を歩いた事、長い氷柱を集めた事、固くなった雪の上を足が沈まないように歩いた事など、何気ない事だが、どこでもいつでも出来る訳では無い経験だ。運動会のドキドキワクワクした気持ちと共に見た朝霧と高い青空や、日焼けもお構いなしで無我夢中でソフトボールの練習をした夏休みなど、四季毎に沢山の思い出があり、四季毎の経験を積んだ。鳥羽谷の恵まれた自然環境の中で仲間と共に六年間のびのび学ぶ事が出来たのは幸せな事である。世界には大気汚染によって外出を控えなければいけない地域もある。

(台湾台北市 在住)



鳥羽小学校を卒業して

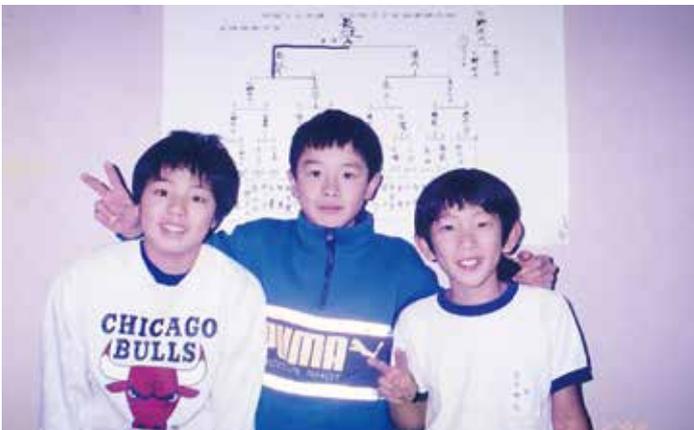
長谷 理史

(平成11年度卒)

鳥羽小学校を卒業して、はや十八年が過ぎました。私は高校を卒業後、県外の大学へ行き、京都に就職しました。その後、転勤で東京へ行っていました。その仕事も辞め、昨年の五月に地元長江に帰ってきました。とりあえず転職活動をしている時期にこの原稿のお話をいただいたので、時間もあるこ

とだしと思ひ、久しぶりに小学校の頃を振り返ってみました。(ちなみに今は無事就職も決まり、働いています)

小学校の思い出としてはやはり鳥羽っ子、常に外で遊んでいたと思います。そして、制服は基本半ズボン。どんな日でも半ズボン。なぜか長ズボンをはいたら負けだと思っていました。また、運が良かったのか、少子化が進む中、長江地区では自分たちの世代の人数が多く、登下校の際の班編成でも長江だけで三班体制となっていました。子どもが多いということは、地区の行事も盛り上がりやすい。太鼓にみこし、戸祝いなど、地区の大人の人に教わりながら楽しく参加していました。特にみこしでは担ぎ手だけでなく、台持ちや鈴持ちなど色々な役回りがあり、上級生にならないとみこしの担ぎ手にはなれず、あこがれの存在だったと思います。また、地区対抗の卓球大会では、夜になると子どもたちで公民館に集まりひたすら卓球の練習をしていました。長江チーム一つでは、子どもが余ってしまったので、長江A、B、Cとチームを



作り、実力者からAチームとなっており、できることならAチームへと以下剋上を抱きながらみんな必死に練習をしていたのを覚えています。ただ、そういった時も必ず地区の大人が引率し、練習をつけてくれていました。今、思えば地区の大人全員に見守られ、育てられていたのかなと感謝しています。

さて、現在の話にもどりますが、県外の大学へ出て、そのまま県外で就職という流れが主流になった今日、地区自治のあり方が問題となつていきます。ただ長江では、私と同世代の層が多く残っています。いま、三十歳前後の層がかなり厚いのです。そのおかげで、地区の運動会も大いに盛り上がっていますし、地区のソフトバレーやソフトボールの大会にも参加することができました。また、総出や消防団など地区での活動もまだまだ盛んです。しかし、楽しいことばかり

ではありません。地区の役員になれば、その都度、雑務が待っています。ただ、こういった活動を通じて地域を守り、人とつながるという意味では、とても良いものだと感じています。

子どもの数が減っていけば、その分子どもの活動も制限されていきます。地域での行事ことも縮小、簡略化されてしまいます。ただ、その流れのなかでも、鳥羽の子どもたちにはまだまだ楽しく学び、いろいろな経験を積んでいける場を作つてあげたいと思います。これまでお世話になった大人たちのように伝統を守り、地域で子どもを育て、また今の子どもたちが鳥羽に帰ってきたらと思われよう頑張つていきたいと思っています。

(若狭町長江 在住)



鳥羽小学校の仲間

松宮 和政

(平成14年度卒)

私が鳥羽小学校を卒業したのは、今から十七年前のことです。同窓

会報の原稿執筆の依頼をいただき、改めて当時のことを思い出す機会

ができたことをありがたく思います。

私が特に感じたことは、卒業して十七年がたった今も一緒にいる



のはやはり、当時の友人なのだということです。

私の学年は全員で二十三人。当時としては人数が多い方ではありませんが、そのおかげもあつてかとても仲が良く、学校の時間はもちろん、休みの日も友人たちといつも一緒に遊んでいました。夏休みとなると田鳥の海に毎日のように自転車で出かけ、暗くなるまで遊び、雪が積もれば、小学校でそりをしたり、雪だるまの出来を競い合う勝負をしたりしていました。中学高校と進学し、別々のクラスになったり、別々の部活に入ったりしてもそれは変わらず、テスト休みになるとみんな鳥羽

小学校のグラウンドで、勉強も忘れて遊んでいたことを思い出します。

大学に進学し地元を離れた後も、頻繁に連絡を取りあつていました。学生時代に友人たちと就職・進路についての話をしたときに、みんなが鳥羽に帰りたいという思いを持つていたことが印象深く残っています。鳥羽に多くの友人がいることは帰省したいと思う一つの要因ではありましたが、それ以外にも自分たちを育ててくださったこの鳥羽地区に帰り、地域に貢献したいという思いがありました。それは友人たちもみな同じだと思います。数年間という短い期間ではありましたが、鳥羽を離れたときに改めてこの地域の結びつきの強さ・温かさを認識しました。それは、鳥羽に帰つてからも強く感じました。今では徐々にではありますが地域や集落の行事等で、さまざまな役を任されるようになり、微力ながら地域に貢献をしていきたいと考えております。

また、私事ですが二年ほど前に結婚をし、一昨年の秋には子どもも授かり一児の父となりました。友人たちも続々と結婚をし、昔のように連絡を取る機会は減つてしまいました。今後は家族ぐるみで仲良くできたらよいなと思っています。

自分の子どももいずれは鳥羽小学校に入学し、たくさんの人たち



に出会うこととなると思います。近年では、この若狭町全体を見ても年々子どもの数が減ってきていると伺っています。私のように



鳥羽っ子の極意

池上 岳 昭

(平成18年度卒)

ずっと一緒にいられる友人関係に恵まれてほしいです。

(若狭町大鳥羽 在住)

近頃、ヒュッゲ(Hygge)というライフスタイルが欧米を中心に流行になっていくそうです。ヒュッゲは、北欧の国デンマークに昔からある言葉で、「居心地の良い時間や空間、またそれらを重視する姿勢」を意味するそうです。具体的には、暖炉を前にろうそくの明かりを灯し、近所の人たちや家族と手作りのお菓子などを食べながら何気ない話題で語らうといったような時間をヒュッゲと言うそうです。この言葉を知ったとき、私の頭に浮かんできたのは子どもの頃の鳥羽谷での記憶でした。デンマークとは違い、暖炉やろうそくを使ったことはありませんでしたが、近所のおじいちゃんおばあちゃん達が玄関先や窓際に集まってお茶を飲みながら話している風景や、その人達が自分の事を知っていて、なんとなく見守られているように感じていた雰囲気、山や川で走り回り、寝転び、土や木や水の匂い

と感触を感じながら友達と遊んでいた時間、それらもまたヒュッゲなのではないかと思えます。

そのような「人とのつながりや自然とのふれあいから生まれる居心地の良さ」は、学校教育においても大切にすべきことだと思えます。そのことを実感したのは、大学を卒業する少し前に、教育実習という形で鳥羽小学校に戻ってきた



た時でした。教員見習いという視点から客観的に見た今の母校の姿は、驚きと賞賛の連続でした。まず、クラスの全員の仲が良いことに驚きました。担当させていた六年生のクラスでは、十八人の児童が特定のグループを作ることなく一人一人と仲良くしていました。それだけでなく、他学年とも仲が良い様子でした。きつと、昔から続いているランチルームでの一斉給食や、週に一回の縦割り遊び、そして集団登下校などの伝統に加えて、改装して木の温かみと開放感を感じるようになった校舎で、安心感を与えてくれる先生方と過ごす居心地の良さが、学校全体の仲の良さに繋がっているのではないかと思えます。

次に驚いたのは、児童たちの野生味あふれる行動力の高さでした。ある日、クラブ活動で学校横の山に登りました。大人になってから見た斜面は、子どもの頃よりも険しく見えました。そんな急斜面を、低学年の女の子までもが両手両足を使って登っていくのです。感心と誇らしさで笑みがこぼれました。道中では、男女や学年関係なく、ドラマのような助け合いが繰り広げられました。そして頂上からの景色を見たときには、大人の自分でも清々しい達成感と高揚感を感じました。このような経験を重ねて、鳥羽小学校の子どもたちは互いに仲を深め、自然への親しみを

深めていくのだろうと思いました。私は今、福井市の中学校で英語教諭として勤務しています。地域が違えば子どもたちの様子も随分違うものだと感じます。世界一幸福な国デンマークと、日本一幸福な県、福井県の鳥羽谷に共通する、人とのつながりや自然とのふれあいを楽しむ温かい心を、一教員として伝えていきたいと思えます。

(福井県福井市 在住)



学校の近況

【学年別児童数】

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
18	19	19	22	18	20	116

【集落別児童数】

大鳥羽	上黒田	麻生野	海士坂	三生野	無悪	三田	小原	南	山内	持田	長江	朝霧	校区外	合計
14	8	10	11	14	4	9	4	7	10	3	7	13	2	116

【職員構成】

校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	講師	学習支援員	調理員	校務員	合計
1	1	7	1	1	2	1	1	1	16

【平成30年度 教育目標】

自分の良さを生かし 夢の実現を目指す児童の育成

- ・自ら、対話的に学習をすすめる子の育成
- ・自分も友だちも大切にしている子の育成
- ・健康な体づくりを習慣化している子の育成



【主な行事】

4月	入学式・始業式・集落児童会・身体計測・全国学力学習状況調査・交通安全教室・PTA総会・敬老会
5月	春季遠足・田植え・内科検診・学校訪問コンサート・PTA奉仕作業・歯科検診・鳥羽リンピック
6月	避難訓練(引渡し訓練)・プール清掃・前期校内研究会・プール開き・家庭地域学校協議会
7月	教育懇談会・PTA研修会・終業式・自然教室・プール開放(8月中旬まで)
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・稲刈り・自由研究発表会・国体競技見学・PTAリサイクルバザー
10月	町小学校陸上記録会・就学時健診・マラソン大会・修学旅行・秋季遠足
11月	後期校内研究会・避難訓練・町P連ソフトバレーボール大会・町小中学校音楽会
12月	感謝の会・人権集会・町県学力調査・教育懇談会・PTA講演会・終業式
1月	始業式・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・そり体験(中止)
2月	スキー教室(中止)・新1年生体験入学・家庭地域学校協議会・お仕事知ろう会・スケート教室
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

卒業証書入れを新調しました

みなさんの卒業証書はどこにどのように保管されていますか？

昨年度までは筒形だった卒業証書入れですが、会長さんのあいさつ文にもありましたように、今年度から同窓会の御寄付により、ブック型のものに変更しました。これにより、本棚等に立てて保管しておくことができるようになりました。

赤地に金文字入りで、表紙には伝統ある霊鳥(鳳凰)の校章が燦然と輝いています。



平成30年度鳥羽小学校同窓会決算書

平成31年3月4日現在見込み

【収入の部】

(単位:円)

	30年度決算額	備 考
会 費	427,000	1,000円×427戸
協 力 金	9,100	職員700円×13人
寄 付 金	13,760	同窓会役員より
前年度繰越金	27,624	
合 計	477,484	

【支出の部】

(単位:円)

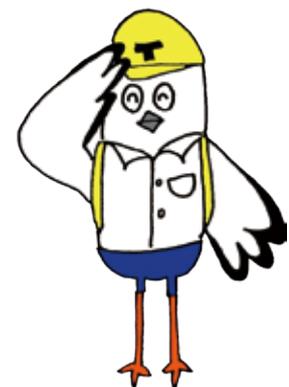
	30年度決算額	備 考
会 議 費	13,348	役員会、理事会、編集委員会
事 務 費	48,924	印刷経費、振込手数料
事 業 費	399,459	
会 報	99,900	同窓会報第28号
教育振興	299,559	児童図書 卒業証書フォルダ テナーアコーディオン 4Kテレビ スケート教室補助
雑 費	5,000	地区区長会へ
次年度繰越金	10,753	
合 計	477,484	

平成30年度鳥羽小学校同窓会役員名簿

役 員	集落等	氏 名
会 長	小 原	岩 本 守 博
副会長	無 患	竹 内 一 善
"	長 江	谷 口 文 代
顧 問	三 田	小 林 銀右工門
"	三 田	福 谷 洋
"	大鳥羽	松 宮 保 彦
"	三 田	岡 本 嘉 樹
"	上黒田	澤 本 啓 一

役 員	集落等	氏 名
顧 問	海土坂	竹 内 小太衛
"	小学校校長	古 田 宗 吉
幹 事	麻生野	三 宅 繁 樹
"	持 田	竹 内 奈 央
監 事	三 田	香 川 和 博
"	麻生野	世 儀 純 子
事務局	小学校教頭	三 宅 勝

役 員	集落等	氏 名	氏 名
理 事	大鳥羽	森 下 麻 美	森 下 真 利
"	上黒田	澤 和 弘	山 崎 文 裕
"	麻生野	中 島 秀 司	香 川 昌 範
"	海土坂	中 村 浩 樹	池 田 貴 一
"	三生野	重 長 達 樹	川 崎 弘 貴
"	無 患	岡 野 学	北 川 和 宏
"	三 田	深 水 道 記	北 川 由美子
"	小 原	島 津 利 明	島 津 一 義
"	南	東 裕 晃	東 繁 樹
"	山 内	中 畑 正 伸	寺 西 浩 子
"	長 江	原 田 佳 典	森 下 裕 子
"	持 田	竹 内 奈 央	玉 井 純 枝
"	朝 霧	鳥 羽 角 栄	大 西 博 美



編集後記

会員の皆様には、同窓会に温かいご支援、ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

今回も、皆様のご協力により第二十八号の会報を発刊することが出来ました。寄稿いただきました皆様には、本当にありがとうございました。編集委員一同感謝です。

さて、この春には子年生まれの皇太子殿下が天皇に即位され新元号になり新たな時代がスタートします。

学校の児童もますます元気で、明るく勉強に遊びに頑張ってくれると思います。これからも、皆様に愛着をもって読んでいただける会報誌として、年一回の発行ですが続けたいと思っています。

今年度からは全ページフルカラーにさせていただきます。

来年号に向けて、会員の皆様の小学校での思い出、近況などの原稿を募集しています。よろしくお願いたします。

(竹内記)

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



交通安全教室



鳥羽地区敬老会



田植え



学校訪問コンサート (Copine)



鳥羽リンピック



水泳学習



自然教室



稲刈り



国体競技見学



外来種駆除



修学旅行



秋季遠足



授業研究会



魚さばき体験



感謝の会